

山行報告



■秋の裏剣

- 山 行 日：10月4日(日)～8(木)
- 参 加 者：L佐々木 SL大谷 田羅間(易) 村上
- 行 動 記 録：

5日(月)：立山室堂(8:00着)8:35発～雷鳥平9:15着～剣御前小舎(10:55着)11:25発～剣沢小屋(12:15着)

6日(火)：剣沢小屋6:45発～平蔵谷(7:55着)8:05発～真砂沢ロッジ(9:00着)9:15発～二股(10:35着)11:05発～仙人峠(13:30着)～仙人池ヒュッテ(13:40着)

7日(水)：仙人池ヒュッテ6:05～仙人温泉小屋(7:20着)7:30発～雲切新道最高地点1629m(9:30着)9:35発～仙人谷(11:45着・昼・コーヒー)12:30発～阿曾原温泉小屋(14:10着)

8日(木)：阿曾原温泉小屋6:45～折尾谷(8:40着)8:50発～大太鼓(9:45着)～志合谷(10:10着)10:15発～蜷谷(11:00着)～樺平(12:20着)

◆◆室堂から剣沢を経て仙人池へ

田羅間

10月4日(日)例会終了後、加古川駅より出発。富山地方鉄道で立山駅へ着き民宿で一泊する。

10月5日(月)いよいよ長い道のりの始まり。ケーブルとバスを乗り継いで室堂へ。バスの中から見る紅葉がとても綺麗であったが、この先4日間のことを考え、楽しみとどんなハプニングがあるのか不安でいっぱいになる。(室堂では道に薄氷を発見。寒い！)

雷鳥沢の急登をあえぎつつ登り、剣御前小舎へ。休憩していると団体が来る。毎日新聞旅行の「裏剣コース」だと言う。私たちと全く同じコース、山小屋も同じという。・・・この後3泊、23～4人のにぎやかさに少々うんざりさせられることになる。

美女平から臨時バスが出ていたこともあり、室堂に予定より早く着き、そのこともあり剣沢小屋に12時15分頃に着く。眼前に迫りくる憧れの山、剣岳。このまま登りたいと思う。登れそうにも思えるほど近い。じっと眺めながら暫し佇む。だが寒い。

中に入りストーブの前に陣取る。

10月6日(火)抜ける様な晴天の中、ヘルメットをつけ気を引き締めて小屋を出発。石ゴロ



ゴロの剣沢を下り、ぬかるんだ小径をまき、剣沢雪渓に入る。アイゼンをつけ、ストックをつき(私は初体験でした)恐る恐る下る。所どころ融け落ちて穴があいていたり、凍っていたりヒヤヒヤしつつ登山道にたどり着く。真砂沢ロッジ(小屋閉め中)前で休憩。筆舌に尽くし難く、すばらしい紅葉と紺碧の空。これを見ずして何が「紅葉を見た」と言えるかと感じ入る。

その後は丸太2本を崖に渡し、鎖にしがみつつ渡る細い道や梯子の繰り返しで二股の吊り橋に着く。小屋の弁当1つを2人で半分にして食べる。ここでもまたまた青い空、すばらしい紅葉、岩山、三ノ窓雪渓。「すご〜い!!」しか、口から出てこない。

休憩と弁当で英気を養い500m程の登りにかかる。ベンチまでは1時間ほどで辿り着く。

何組かに抜きつ抜かれつしながら登る。そこからはかなりの急登。ハシゴあり、岩登りありでそこまでの半分ほどの距離を1時間少々かけて池の平分岐に着く。そこを右に曲がり仙人池ヒュッテに到着。

ヒュッテが凄い。私達の部屋は物置部屋同様に窓がかたむき、隙間風。床と壁の間からもスースー。新聞紙を詰めて何とか防ぐ。落ちてきそうな天井はミシミシ。団体のにぎやかな声が降ってくる。しかも部屋のドアはギーギー。開けておくと強烈な昔の田舎トイレの臭い。今までで最悪の部屋。でも、浸かるだけの風呂があり、食事も手造りでおいしかった。

◆◆仙人池から阿曾原温泉を経て樺平へ

村上

7日秋晴れ、標高2080mにある仙人池ヒュッテの朝、5時40分が日の出の時刻、池に映る逆剣が素晴らしい。朝焼けにより刻々と変わる山々、言葉にいいつくせない美しさを後に、ただひたすら急な500mの下りを降り、仙人谷を渡り、仙人温泉小屋へ、すでに小屋は閉められていました。一息ついて、沢の雪渓を慎重に登り、仙人湯を横目に沢の急坂に登る。雲切新道は阿曾原温泉のご主人(佐々木泉)が切り開いた登山道です。ピーク(1629m)過ぎ、下りにかかった時の展望は紅葉にそまる山々のグラデーションが息を呑むすばらしさです。仙人ダムへ下る三段の長梯子はダム水面近くまであり一人ずつ慎重に下りました。仙人谷を渡った所で昼食をとり、ゆっくりとコーヒータイムです。迷路のような仙人ダムを通り、トンネルを過ぎてからしばらく行くと急登、そして水平歩道を歩き、下った先にやっと青い屋根が見えました。小屋から10分下った所に源泉かけ流しの露天風呂があり、お風呂上りの登りは大変でした。名物カレーを皆でおかわりしました。夕食後は阿曾原温泉小屋のご主人の黒部に関するビデオ上映があり、黒部の歴史を知ることが出来ました。

8日秋晴れ、ひたすらせせらぎを聞きながら朝から急登です。水平歩道は仙人谷から樺平までの標高1000mの等高線にそって水平に結ぶ左手の絶壁をコの字にくり抜いた13kmにわたる頭上注意、足元注意、荷物(リュック等)注意の危険な歩道です。ここは山側の左手にワイヤーが張られていて、ここで落ちたら絶対

助からない高さです。

折尾谷のトンネルの中はぬかるみを歩きました。大太鼓の対岸は奥鐘山岩壁が圧巻です。志合谷のトンネルは150mあり、真っ暗です。足元は水が流れていて注意、よくもこんなトンネルを掘ってくれて・・・感謝です。沢の短いトンネルを抜け水平歩道ともお別れ、急な登山道を下り樺平(590m)へ。

ようやく緊張の山行が無事に終わりました。





■扇の山(鳥取と兵庫の県境の山)

- 山 行 日：10月17日(土)
- 参 加 者：La 和田 SLa 小山 香川 田中(美) 田中(由) 西川 村上
Lb 澤田(律) SLb 苦瓜 上川 田中(重) 宮崎 山本(清)
- 行 動 記 録：姫路地場産ビル前 6:30 発－八頭道の駅(8:20 着)8:30 発－ふる
里の森コース登山口(9:05 着)9:20 発～1 1 9 4 mピーク 10:15
通過～扇の山頂上(10:35 着・昼食)11:15 発～大ズッコ手前のコル
(11:30 着)11:35 発～扇の山頂上(12:05 着)12:10 発～檜蔵 12:30
通過～姫路公園コース登山口(13:10 着)下山 13:20 発－栗倉
温泉黄金和泉(14:55 着)16:00 発－姫路地場産ビル前(17:10 着)

◆◆念願の扇の山登山

西川

扇の山は兵庫県と鳥取県にまたがっており、なだらかな尾根筋が扇を広げた姿に似ているところからその名がついたと言われており、兵庫100山、日本300名山に選ばれている山で、私も一度登ってみたい山の1つでした。距離的な問題もあり今まで登れずにいましたが、入会早々そのチャンスが訪れたので早速申し込みをしました。

当日は宝殿駅、姫路駅に集合し和田リーダーをはじめ合計13名で鳥取八頭町を目指し出発しました。途中佐用JCT付近で雲海を見る事が出来たり、つるし柿など田舎の風景を眺めたり、トイレ休憩の道の駅では柿の特売があり早速美味しい西条柿を購入しました。

その後バスは細見川沿いの細い道に入り、山肌ぎりぎりの細い道をくねくねと高度を上げ9時過ぎには標高888mのふるさとの森登山口に到着。準備体操のあと9時20分に2班に分かれ出発しました。熊出没の恐ろしい看板にビビリながら出発しましたが、雪の重さで曲がった木の幹や歩きやすい落ち葉の山道、小川のせせらぎに癒されながら順調に登り、10時35分には1310mの山頂に到着することが出来ました。山頂からは南側と西側が開けていて目の前に氷ノ山の大きな山容が、さらに左手には鉢伏山も望むことが出来ました。

山頂には立派な避難小屋があり、その前で記念撮影をした後早めの昼食をとり、時間に余裕があるので河合谷登山口に向かい11時15分に出発しました。途中、兵庫県では珍しいブナの紅葉を見ることが出来ました。まだ木が若く貴重な自然として今後保護が必要と思いました。

ブナの林で折り返し再び頂上に戻り少し休憩をし、改めて姫路公園コース登山口に向かい12時6分下山を始めました。途中展望のきく場所があり、2メートル四方くらいの岩場で両横が切れ落ち断崖絶壁になっているのですが、そこからの眺めがすばらしく後方の緑、黄、を背景にナナカマドの赤が映え、その恐ろしさを忘れさせるほどの景色でした。滑りやすい川沿いの道に苦労しながらも13時10分姫路公園コース登山口に到着。

季節、天気にも恵まれ、コースも上り下り各1時間ちょっとの比較的楽なコースでした。



帰りは西栗倉温泉に入りビールを頂き、バスではおやつのシャワー状態で、今までにない山行でした。今回お世話して頂いたリーダーをはじめ一緒にいただいた皆様、また登山口まで運んで頂いたバスの運転手さんのお陰で大分楽をさせていただきました。本当にありがとうございました。



■高御位山縦走 トレーニングor歩荷力強化縦走

- 山 行 日：10月18日(日)
- 参 加 者：L山本(正) SL瀬尾 赤木 嶋澤 清水 荘所 須増 平井 宮崎
森下 山下(雅)
- 行 動 記 録：JR宝殿駅8:40～鴻ノ池9:40～北池分岐10:10～高御位山
頂上(11:40着)12:00発～桶居山分岐12:40～桶居山手前鉄塔
13:55～桶居山頂上14:30～深志野 16:00～JR御着駅
- コース調査隊：澤田(律) 砂川(延) 藤本 三木(悦) 和田

◆◆高御位山縦走トレーニングに参加

山下

高御位山にはいろいろな所から登ったが、今回は初めてのコースで距離も長かったし、天気も良く一面青空で、気温も上がり暑くなるようなので体力的にも心配であったが、とにかく宝殿駅を9時前に出発して魚橋の鴻ノ池より登り始めた。

登り始めて少し行くと「里山道」という立札があり整備されていない山道を歩いて行くと、いつものコースと繋がった。ここで休憩を取り一息入れて高御位山に向かって出発した。休憩を取りながらの山行であったが、高御位山頂上への最後の登りと階段は、いつ来ても足の動きが重くなってしまった。ここで木陰を探して昼食を取る事になった。昼食後はザックも少し軽くなった所で、午後のスタートとなった。

桶居山までは、上り下りを繰り返しての山行であったが、休憩を取りながらなので桶居山までは皆について行く事が出来た。

桶居山を過ぎると下り坂の急な所が多かったが、今回は逆コースからも挑戦してみたいと思った。

今回はリーダーのペースが自分に合っていたようで無理なく最後まで行けました。リーダーはじめ参加者の皆さん、お世話になり有り難うございました。





■六甲高山植物園(高山植物園の紅葉を楽しむ)

- 日 程：10月23日(金)
- 参加者：L野村 SL藤本 砂川(延) 田中(重) 田中(由) 田羅間(勤)
田羅間(易) 土屋 三木(勉)
- 行動記録：神鉄有馬口駅9:15発～林道分岐(11:20着)～極楽茶屋(12:00着)12:10
発～植物園(12:40着)14:00発～ケーブル上駅(14:40着)14:50発～
油コブシ(15:20着)15:30発～ケーブル下駅(16:10着)

◆◆六甲山 高山植物園

土屋

10月23日(金)空高く秋晴れの今日神鉄有馬口駅に集合し9人で六甲山を目指す。

しばらく山王神社まで歩きストレッチをしてたわわに実を着けた柿の木を横目にトコトコ、てくてく舗装された林道を登る。途中の別れ道で左側に行くと土砂崩れで大きな石が道を塞ぎ大木が倒れたところで足を上げ木をまたぐがアレ・足の丈が足りない？木の上にまたがって通る。あと30分で到着というところが急な上り坂でヒイヒイ。極楽茶屋で少し休んで植物園を目指す。



途中ジンギスカンの好い匂いに誘惑されそうになったが無事植物園で昼食。

紅ドウダンや1本真っ直ぐなピンクのクリンソウ、白い紫陽花、池に睡蓮、ふと山を見上げると紅、黄、緑と素晴らしい景色空は真っ青とってもステキ！さあ帰ろうと車道を歩く。

少しカーブを曲がったらパッと目の前に海、六甲アイランド、大阪湾？綺麗な～と思っていたらPM2.5で霞んでいたらしい。まだまだ未熟な私でした。

六甲ケーブル山上駅で少し休み歩いて下山する事になった。なかなか難しい急な下り坂で足はパンパンに肩はかちこち緊張の連続でやっと街に出た時ホッとしてすごく嬉しかった。こんなにいい天気恵まれ、度々気遣って頂きリーダーさんはじめ皆さんに感謝有難うございました。

六甲ケーブル山上駅で少し休み歩いて下山する事になった。なかなか難しい急な下り坂で足はパンパンに肩はかちこち緊張の連続でやっと街に出た時ホッとしてすごく嬉しかった。こんなにいい天気恵まれ、度々気遣って頂きリーダーさんはじめ皆さんに感謝有難うございました。



■岩湧山～槇尾山(女性委員会)

- 山 行 日：10月25日(日)
- 参加者：La 瀧原 SLa 三木(悦) 開 岡本 金島 田中(重) 島谷 田羅間(勤)
 苦瓜 宮崎 矢根
 Lb 砂川(延) SLb 待場 上川 香川 小山 谷口 村上 田中(美)
 田中(由) 田羅間(易)
- 行動記録：岩湧の森駐車場(9:00着)9:05発～四季彩館(9:25着)9:35発～岩湧山山頂(10:55着)11:35発～カキザコ 12:50～滝畑ダム(13:20着)13:30発～ボテ峠(14:15着)14:20発～槇尾山施福寺(15:20着)15:30発～施福寺山門(15:50着)

◆◆「あー、幸せ」

島谷

秋晴れでした。山行には願ってもない青空のもと、岩湧山頂のススキに囲まれて皆で集まったの昼食や、観音霊場の施福寺から向こうに見える、さっきまで居た岩湧山に感動し、とても幸せな1日でした。

岩湧の森駐車場を出発して急坂を登ること約1時間、瀧原リーダーの「さあ、ここからがダイヤモンドトレイルですよ」の声。真夏とは違い息があがることもなく、私にぴったりの速度で「あーよかった、ついて行けそう」と安心して前方をみると、ススキ・ススキ・ススキ、ススキの真ん中に道があるではありませんか。私の背をかるく超えるようなススキの間をぬけると、眼下には大阪平野が広がっています。「あれが金剛山、左が葛城山で、その横が二上山（ふたがみ山ではなく、「にじょうざん」なのね、ひとつ賢くなりました）」と、教えてもらい夢はふくらみます。風になびくススキを眺めていたら「夕方はどんなんやろう？見たいな、無理やし。夕方に来る人あるんかな？まさか、無理やろ。テント張って？いや、ライトつけて山道を下りるんかな？」「腕が3メートル程のびて、ススキの穂をサーとなでられたらいいのに」と幸せな想像女子です。頭上の飛行機は近く感じます。休憩は、「丸く座るか」の言葉ももらい遠足園児気分の円座でした。皆さんのランチを眺めて、おにぎりだけの私は、今度は温かい物も、ウインナーも、果物もと思ったころには、トマトやゼリーやお菓子を次々いただき、その都度「いただきます」と胃袋に収めていきました。



あー、幸せ。

山頂から、槇尾山施福寺の青い屋根が見えます。あそこがダイヤモンドトレイルの終着で、峠をいくつか越えていきます。「施福寺からこっちのススキを見ようね」と励まし合い、いざ出発です。

杉木立、ヒノキ林の中をほとんど無言で進みます。先は長いです。私は、ただ、後ろを自分の体力だけを気にして歩いていますが、リーダー・サブリーダーさんの峠や目印の箇所の時間設定、休憩時の指示、写真撮影、記録担当さんのポイントでのメモ、メンバーさんたちの時間厳守行動等、「すごいな」と正直な感想でした。多人数の行動がスムーズに出来るのは気持ちよく、この連携プレーに遅れてはならぬと、気持ちを引き締めました。

施福寺まで遠かったです。下ったり、上がったりを何度も繰り返したような気がします。終りのみえないアップダウンで、「もうすぐです」の古い看板に、「あと何メートルと書いてよ。私の「もうすぐ」は5分なんやけど」毒づきました。参拝者は反対側の駐車場から整備された道と階段を上られます。西国三十三所参りの中でも難所といわれているお寺で、私は、7年程前に西国参りで訪れました。あの時は、もうお参りに来ることもないだろうと思っていましたし、確かに前に見える山を眺めました。あの時には施福寺から見えるあの山(岩湧山)に登れる日がくるなんて思いもしなかったです。さらに施福寺から岩湧山の山頂のススキ(施福寺から見るススキは、ハゲ山に見えました)を、見られて感動しました。あー幸せ。

心身ともに、素敵な1日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。



■東床ノ尾山、西床ノ尾山縦走

- 日 程：10月31日(土)
- 参加者：La 垣内 SLa 苦瓜 乙坂 嶋澤 土井 平井(み)
Lb 上田 SLb 村上 田口(末) 田口(善) 田中(重) 西川 松本 吉村
Lc 尾内 SLc 中嶋 赤木 坂田(俊) 田中(美) 田中(由) 山本(正)
Ld 砂川(延) SLd 藤本 大野 西脇 舛賀 萬代 森下 平石 山本(清)
- 行動記録：バス到着地点(9:15着)～西床ノ尾山登山口(9:25着)9:30発～西床ノ尾山山頂(11:00着)11:15発～821mのピーク(11:55着)12:00発～東床ノ尾山山頂(12:20着)13:00発～糸井の大カツラ(14:20着)14:40発～登山口終点(14:45着)

◆◆“ 秋の山を楽しむ… ”

西脇

山行は参加者30名、大型バス利用。旅行気分での出発となりました。

計画では大型バス利用なので、竹之内BSで下車、糸井溪谷の林道を歩いて西床ノ尾山登山口への予定…だった。が、うれしい？ハプニング…大型バスが細い林道をゆっくりとあがってくれた。マイカー登山の駐車スペースまで直行してくれたのである。運転手さんに皆で感謝の拍手！乗せて貰っていても怖かったです。

さて、山登りは、A、B、C、Dの4班編成で僕は最後のD班である。朝の元気なところを写真撮影の後、出発。西床ノ尾山頂をめざし、羅漢谷に沿って登っていく。溪谷は幅も広く、水の量も豊富でいやされながら約30分登り、小休憩。身体も暖まって上着を一枚とることに。

次は急な登りである。一步一步、黙々と登って行く。右手の溪谷はだんだん細く、深くなっていき、清水の音も小さくなっていく。

植林されたスギ・ヒノキの林の中を登る。標高も高くなっているが、程良く間伐がなされている。樹木は急な斜面に力強く根を張り、根元は谷側にU字に曲がり、そして天に伸びている。幼木の時に雪の重みに耐えた痕とか。

山頂近く、陽が射しこんでくる。やっと登りつめたか。…60分余りの急登でした。



西床ノ尾山頂は少し冷たい風があった。身体が冷えぬようわずかな休息で次の東床ノ尾山頂をめざす。クヌギ・ホウノキの枯れ葉を踏んで尾根道を下って行きます。尾根道は少しラクチン、少し余裕。左右の山並みが眼に入る。広葉自然林部分は黄色・オレンジ、赤がかり、秋の装いで美しかった。

標高821m地点を通過、アップダウンの後、最後はどっしりと開けた急登。いよいよ頂上だ。東床ノ尾山の一等三角点にタッチ。やった！360度の大展望が広がっていた。

頂上にて至福の昼食。デザートあり、但馬ドーム・蘇武岳・氷ノ山も見える。

ここで全員での記念写真を撮り、大満足。あちこちでにぎやかな話声が聞こえる。13時下山の時間になりました。予定されていた急斜面の下りは避けて、登山道を821m地点まで戻

り糸井の大カツラをめざすコースになりました。とはいえ、急峻な山肌を九十九折りに、慎重に下る事に。というのは足元には大小多数のがれき（石片）がある。つまずいたりすれば、尖ったがれきが転げ落ち、先発班を直撃しかねない。…標高差350m余りこんな状態が続き、気が抜けませんでした。疲れしました。

何とか無事天然記念物である大カツラの木に到着しその雄々しさに感動。記念写真を撮りました。

充実した秋の山行でした。リーダーさん、みなさん、お疲れさま…ありがとうございました。



■六甲山シュラインロードの野仏を訪ねる

- 山 行 日：11月3日（火・祝）
- 参 加 者：La 三木(悦) SLa 待場 有本 坂田(敬) 田中(重) 田中(美) 土屋 矢根 山本(清)
Lb 藤本 SLb 瀧原 赤木 金島 嶋澤 田中(由) 苦瓜 村上 山下(純)
- 行 動 記 録：神鉄有馬口駅9:00 発～山王神社(9:10 着)9:20 発～シュラインロード 入口(10:25 着)10:30 発～行者堂(11:15 着)11:20 発～前ヶ辻(11:50 着) 11:55 発～記念碑台(12:05 着)12:50 発～六甲ケーブル山上駅(13:05 着) 13:15 発～油コブシ(13:50 着)13:55 発～六甲ケーブル下駅(14:55 着)

◆◆シュラインロードから油コブシへ

山下

シュラインってどういう事かな？

「神社、鳥居」という事。という答えが前の列から帰ってきました。

「なかなか行けない所なので、行って見て下さい」と会長の一言で参加を決めました。

神鉄有馬口の小さな駅に降り、歩きだすと逢山狭に入りさすがに山の中はすっかり秋の深まりを感じます。青い空と赤や黄色の山々、前日の雨で水かさの増した猪ノ鼻滝「ワー」と歓声が上がり元気をもらいました。

いよいよシュラインロード、イケメンの最初の九体の仏様に出会い、山を登り10体～20体、「今、何体目」「20体かな」無心で手をあわせた。「今、何体目」「わからん」リーダーの数は正確でした。最後はきっちり37体、さすがです。

やさしい仏様に出会い、楽しい一日をありがとうございました。



■ 唐櫃古道 シュラインロードと野仏の謂れ

六甲山上の前ヶ辻を起点として北区唐櫃へ行く道を唐櫃道又は行者堂と呼びます。六甲山の古道の一つでこの道の特徴は路傍にたくさんの野仏が佇み行者堂と呼ばれる祠も残り神秘的な道です。石仏が建立されたのが1825年、道中の無事と商売繁盛の願いが込められ、石仏は西国33箇所にちなみ33体と番外を含め37体あります。

トンネルやドライブウェイ工事のため最初の地を追われた9体の野仏がシュラインロード入口近くの道路沿いに移転してあります。それが九体仏と呼ばれています。

行者堂や石祠から、神戸に居留していた外人ハイカーたちによって、シュラインの道と呼ばれ今ではシュラインロードの名が一般的になっています。

※六甲山ガイドハウスよりいただいた資料の一部を抜粋：三木悦子

《11月例会 高御位山で見かけた花と実》

撮影者：尾内

サンキライ



サザンカ



ダイヤモンドソウ

